

# スクールホッテライイン

## 新年度はじまる

from 志水小学校

四月六日（水）の入学式。晴天に恵まれ、桜の花も満開の春、新一年生五十一名が志水小学校に入学しました。

前日の五日（火）には、新六年生が登校し、入学式に向けて準備をしました。新一年生のために、きびきびと働く姿には最高学年としての自覚が感じられました。体育館や一年生の教室をはじめ、廊下やトイレ、運動場等、あちらこちらで六年生が大活躍しました。たくさんの椅子を両手に抱えて運び、列をきっちりそろえて並べる児童、椅子を水拭きする児童、壇上を飾るチューリップとビオラの鉢を工夫して並べる児童、みんな生き生きと働きました。

一年生の教室では、黒板に歓迎の言葉を掲示し、廊下や教室を色とりどりに飾り付け、一年生のわくわく感を高めるようにとがんばりました。予定通り準備が整い、入学式を迎えることができました。

入学式では、参列された来賓の方にお祝いの



「自分のことは自分でする」「あいさつを元氣よくする」この三つを力いっぱいがんばれば、立派な志水っ子です。教室では、担任の先生に名前を呼んでもらい、元気に返事をする姿は大変かわいらしいものでした。

翌日の四月七日（木）は、始業式。全校三百六十七名の児童が全員登校しました。あいにくの雨でしたが、新しい仲間、新しい先生、新しい教室との出会いがあり、どの児童もはつらつとした表情で、平成二十八年度をスタートすることができました。

言葉でいたなき、校長先生からは三つの大切なことをお話ししてもらいました。「命を大切に

## 史料から 豊山

### 第2回

今回は、民具資料から「大八車」、文書資料から「地籍図」をご紹介します。



▽大八車  
大八車は、大きな荷物や、重量のある荷物を、あるいは小さなものを一度に大量に運ぶために、江戸時代初期に江戸で使用され始め、全国に広まってきました。

しかし、尾張近辺では、名古屋城築城時に考案されたという人も数多く見られます。

呼び名の起源には、「車台の長さが八尺だから」という説、「大津八町で考案された」という説もありますが、「一人で大人、八人分の運搬ができる」ところから」という説が広く知られています。本町でも、米や農作物などの運搬に使用されていたものと考えられます。

大正時代になり牛車やリヤカーが普及すると徐々に取って代わられ、戦後

間もなくには使われなくなりました。ちなみにリヤカーは、英語の rear (後ろ) と car (車) を合わせた和製英語で、本来は自転車の後ろに繋げて引くように考案されたものです。

〈参考〉岩井宏實監修『絵引民具の事典』『書窓 平成二十二年四月号』より

▽地籍図  
明治新政府が金納制の租税徴収の精確を期すために、全国に提出を求めた絵図です。豊場村と青山村のものがとても良い状態で保管されています。地籍図は明治期前半のものであるため、江戸時代以前の村の様相を強く残しています。



提出  
時の村の控え  
と思われ  
る本資料で  
も、青  
山村字  
九反坪  
内に「条  
里制の  
名残」が、豊場村字西殿邑に古墳と思  
われる区画が見られます。両図とも手  
描きの大きな掛図形式で、特に豊場村  
のものは縦が三メートル近く、横も約  
二メートルあります。

『書窓 平成二十五年六月号』より

